

2021年12月27日

株式会社三菱UFJ銀行

## 次世代ワクチンを開発する米国 VLP Therapeutics, Inc.への出資について

株式会社三菱 UFJ 銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一<sup>はんざわ じゅんいち</sup>、以下 当行）は、今般、がん、マラリア、デング熱などのワクチンを研究開発する米国のバイオテクノロジー企業 VLP Therapeutics, Inc.（CEO 赤畑 渉<sup>あかはた わたる</sup>、以下 VLPT 社）と出資契約を締結いたしました。

VLPT 社は、世界の「満たされていないメディカル・ニーズ」に応え、従来のワクチン療法を一変する革新的な治療法の開発を目的として、2013年に設立されました。2020年6月には完全子会社の VLP Therapeutics Japan 合同会社（以下 VLPT ジャパン社）を日本に設立し、VLPT 社のレプリコン（次世代 mRNA）技術を用いた新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）ワクチン<sup>[1]</sup> 開発に取り組んでおります。VLPT ジャパン社は、日本医療研究開発機構や厚生労働省からの補助金を受け、2021年10月より COVID-19 ワクチンの治験を開始しています。

当行では、経済性と環境社会インパクトを両立させた投資を拡大すべく、投資判断に、環境社会インパクトを加味する「サステナブルビジネス投資戦略<sup>[2]</sup>」を2020年8月に公表しました。また、国際金融公社が策定した「インパクト投資の運用原則」へ署名<sup>[3]</sup>しており、環境分野でインパクト投資を行うファンドなどへの出資も行っております。

当行は、VLPT 社への出資を通じて感染症の予防やがん治療を目的とした VLPT 社ワクチンの実用化を支援するとともに、VLP ジャパン社の COVID-19 ワクチン開発事業の運営についても様々なサポートを行ってまいります。また、ワクチンの実用化によって生じる社会的インパクト<sup>[4]</sup>の可視化およびマネジメントをサポートし、社会分野でのインパクト投資に関するノウハウを蓄積することで、社会課題解決に貢献してまいります。

### < VLP Therapeutics, Inc.の概要 >

所在地	米国メリーランド州ゲイサースバーグ
設立	2013年
代表者	CEO 赤畑 渉
事業内容	マラリア、デング熱など感染症ワクチンおよびがん治療ワクチンの研究開発

### < VLP Therapeutics Japan 合同会社の概要 >

所在地	東京都千代田区
設立	2020年6月
代表者	代表職務執行者 赤畑 渉
事業内容	COVID-19 ワクチンの研究開発

- [1] 接種した mRNA が体内で一定期間、自己増殖するタイプのワクチン。  
現行の mRNA ワクチンと比べて 10～100 分の 1 程度に接種量を抑えられることから、短期間で日本全人口分の製造が可能となること、副反応が低減されることが期待されます。
- [2] サステナブルビジネス投資戦略については、以下のリンクをご参照ください。  
<https://www.bk.mufg.jp/houjin/info/pdf/20200805.pdf>
- [3] 「インパクト投資の運用原則」への署名については、以下をご参照ください。  
[https://www.bk.mufg.jp/news/news2021/pdf/news0315\\_1.pdf](https://www.bk.mufg.jp/news/news2021/pdf/news0315_1.pdf)
- [4] VLPT ジャパン社の COVID-19 ワクチンは日本国内での製造・流通を予定しており、接種用量を抑えられることによる製造面での技術促進、流通面での効率化、変異株への対応力が高いワクチン技術による医療面での技術進歩などが期待されております。

以 上